

【トラック4】

まる「まる特製特大パフェお待たせしました〜♡」

まる「それじゃあ、お兄さんの隣に座って、と...一緒に食べましょうね♡」

まる「お兄さんの体にぴったりとついて...恋人みたいですね♡」

まる「さて、スプーンでクリームをすくって...はい、あーん♡」

まる「どうですかぁ...お口の中で蕩けて、美味しいですかぁ？♡」

まる「今度はお兄さんがマルに食べさせてくださいよう、ほら、お口開けてますから...」

まる「べーってひたして...ここに生クリームを、のせてください♡」

まる「んっ...はむっ、ん...クリームが、口の中で唾液と混ざってえ...んちゅ...ちゅる...とっても美味しいです♡」

まる「んー？どうしました？もじもじしちゃってえ...」

まる「お兄さんのお膝、マルがスリスリしてるの気になりますう？」

まる「やさし〜く撫で撫ですると、幸せな気持ちになりますよね」

まる「あ、でもお兄さんは変態さんだからあ...これで興奮、しちゃうんですかぁ？」

まる「くすっ、スリスリされただけでえ、おちんぼピクつかせちゃう変態、変態マゾ...」

まる「も〜っとスリスリされたい場所、あるんじゃないですかぁ？」

まる「ここ、既に半勃起してる、ち・く・び♡」

まる「ほら、服の上から乳首も撫でてあげますよお」

まる「すりすり...さわさわ...すりすり...さわさわ...」

まる「たまに、爪の先でカリカリ♡」

まる「...あはっ、ビクってしましたね♡ランダムな刺激、気持ちいいですかぁ？」

まる「でも、あんまりぴくぴく動くと、ちゃんと口元にあ〜んできないですよ〜？」

まる「ほら、あ〜ん♡」

まる「もぐもぐ♡甘くて美味しくて嬉しいですね〜」

まる「それとも...こっちの刺激の方が嬉しいですかぁ？この変態乳首♡」

まる「ねえお兄さん？この前え、マルみたいな小さい女の子に、い〜っぱいここ...」

まる「すりすり...コリコリ...カリカリってされてどうでした？」

まる「元から乳首で感じる素質あったんでしょけどお...」

まる「も〜っと乳首マゾに墮とされたい、って思ったんじゃないですかぁ？」

まる「コリコリコリコリ...カリカリカリカリ...ほら、マルにこう囁かれるだけで...」

まる「ドキドキして、乳首がムラムラしちゃう、乳首ざこ♡」

まる「それって、男としてどうなんですかぁ？」

まる「メスみたいに敏感な乳首で言いなりになって...マゾさんかわいそうですう♡」

まる「あ、今度マルが食べる番ですねっ、ほら、多めに取って食べさせてくださあい...」

まる「ここですよ、この舌...んべえ...」

まる「あむ...おいひいです♡んちゅ...ちゅる...口の中で溶けてえ...んっ、はあ...」

まる「んー？こちらを見てどうしたんです？」

まる「もしかして、マルのお口の中、気になりますかぁ？」

まる「くすっ、違いますか？ならいいですけどお...」

まる「口の中で溶けて...んっ、ちゅる...はあ...おいひい...んっ...ごくんっ...はあ...濃厚〜♡」

まる「くすっ、マルがごつくんするところを食い入るように見てえ...」

まる「やっぱり気になるんじゃないですかぁ？マルの生クリーム唾液♡」

まる「え〜ほんとかなあ、まあマルは別にいいですけどお」

まる「今度はお兄さんの番ですよ？」
まる「ほら、あ〜ん♡…くすっ、乳首も忘れずにくにゅってしてあげますね♡」

まる「…あっ、もう、お兄さんが動くからほっぺについちゃったじゃないですかぁ…」
まる「もったいないのでマルが舐めとってあげます♡」
まる「こっち向いてじっとしてくださあい」

まる「ん…れろ…ちゅる…ちゅば…じゅるる…じゅる…」
まる「んふっ、お顔近づくと、恥ずかしいですかぁ…んちゅう…れろお…♡」

まる「はい、綺麗になりましたよお♡」

まる「あれえ、お兄さんどうかしましたあ？」
まる「マルにお顔舐められて、何か想像しちゃいましたあ？」
まる「例えばあ、マルの涎とか♡」

まる「くすっ、お兄さんってえ、乳首スイッチでエッチな気持ちが高まると…」
まる「どんどん変態的なことしたくなるんですよえ？」

まる「それってなんでか分かりますう？」
まる「お兄さんがマゾ乳首の情けないオス、だからですよお♡」
まる「マゾ乳首の快楽に負けて、もっと堕ちたい、頭とろとろにしたい」
まる「その背徳感に乳首のあまあい刺激が加わって、脳みそバカになっちゃう」

まる「恥ずかしいですねえ、女の子に笑われちゃいますよお？」
まる「あ、笑われるのも好きですよえ？くすっ♡」

まる「ほら、乳首も爪で往復カリカリしてあげますからあ…カリカリカリカリ〜って♡」
まる「もう素直になっちゃいましょうよお」
まる「小さい女の子が咀嚼した、お口の中で唾液と混ざった生クリーム、欲しいですかぁ？」

まる「女の子に口移しされたらあ、変態プレイにムラムラしてえ…」
まる「も〜っと乳首の感度、あがるかもですよお？」

まる「くすっ、欲しいんですよえ…マルの唾液と混じった生クリーム♡ざあこ♡」
まる「いいですよお、では、マルの舌の上にもう一度…食べさせてくださあい♡」

まる「はむっ…んっ…くちゅ…ちゅば…はあ…あまくて蕩けるう…じゅる…」
まる「んっ…くちゅ…それじゃ、だらしなくお口あけてくださあい♡」

まる「くすっ…いやらしくて情けないお顔、可愛いです♡…ん…じゅるる…くちゅ…」
まる「んっ…んべえ…れろお♡…ほら、ちゃあんと味わってくださいね〜、このマゾ変態♡」

まる「ついでに…れろ…ちゅ…んちゅう…じゅる…れろお…ちゅば…んっ…はあ…」
まる「マルの…んちゅう…お口の中に余った唾液もお…んちゅう…」
まる「じゅる…ちゅば…くすっ…んちゅう…じゅる…ちゅ…れろお…」

まる「くすっ、エッチなキスもしちゃいました♡」
まる「どうですかぁ？マルの口移し、美味しいですかぁ？美味しいですよえ？」

まる「だって…お兄さんのマゾちんぽ、こんなにギンギン♡」
まる「どうしてパフェを食べてるだけなのに、こんなに大きくてえ、かったあいんですかぁ？♡」
まる「この中どうなってるのかなあ…ねえ、お兄さんのここ、見せてくれませんか？」

まる「え〜別にいいじゃないですかぁ、減るもんじゃ無いし…」

まる「見たいなあ、お兄さんのバキバキになったかつこいいおちんぼ♡」

まる「おちんぼっ...おちんぼ見たいよお...お兄さんのお、ぶっとくてえ...」

まる「女の子を孕ませ準備万端なエググいおちんぼお...ねえ、おねがぁい♡」

まる「ねえ、見せてえ...お兄さんのおちんぼ見たら...」

まる「マルもきっとおまんこ、きゅんきゅんしてえ...んっ...好きになっちゃう、かもお...♡」

まる「くすっ、お兄さんって耳元で囁かれると倫理観なくなるんですかぁ？」

まる「ほんと雑魚すぎます、エッチなことしか考えられない変態ザコ♡」

まる「すん...すんすん...はあ...くっさぁ♡エググいオスの匂い...させてますねえ♡」

まる「すんすん...はあー、くさっ♡匂いでマルを発情させるつもりですかぁ？」

まる「小刻みにチンピクさせてえ...先端から透明なマゾ汁をとぶとぶ溢れさせて...」

まる「もうお射精したいよおってチンふりアピール♡」

まる「くすっ、このザコちんぼ、どうしてほしいのかなぁ？」

まる「あっ、そういえば、パフェの続きでしたね...」

まる「スプーンで掬って...またあ〜んしてあげますよお♡」

まる「あっ、すみません...ちょっと手が滑って...」

まる「生クリーム、お兄さんの勃起ちんぼに落としてしまいました...てへ♡」

まる「どう しますう？ 悪いのはマルですしい...」

まる「いったんパフェを食べるのを中断して、綺麗にお掃除しましょうかぁ？」

まる「普通に拭くこともできますけどお...」

まる「も〜っと綺麗にするために、今なら特別オプションで...」

まる「この舌でえ...んちゅ...ちゅば...れろお...ぺろぺろ隅々までなめてえ...」

まる「んちゅ...じゅる...綺麗にしますよお...？」

まる「サービスでえ...乳首を両手でコリコリ...カリカリしながらのロリフェラ♡」

まる「...堪能してみますかぁ？」

まる「くすっ、オプション追加ありがとうございます♡変態マゾさん♡」

まる「ほら、もっとこっち向いてください？ チンポにお顔を近づけて...」

まる「うわぁ...生クリームが溶けて...えっろおいオス汁と混ざり合ってやばぁ...」

まる「ほら見てください、こんなにトロトロですよお♡」

まる「それに、チンポのオス臭とあまあい匂いが混ざって...より一層スケベな香りです♡」

まる「それじゃ、いただきま〜す♡」

まる「まずは先端から...んっ、んぐっ...ちゅる...じゅるる...」

まる「あはっ、あまあいです...ちゅば...れろお...れろれろ...ちゅる...」

まる「ほら...乳首もいじってあげましゅよお...ちゅる...」

まる「んっ...カリカリカリカリい...爪で乳首さんをピンっピンって弾くみたい...」

まる「いじめてあげましゅ...んちゅ...」

まる「じゅる...ちゅばぁ...れろお...んっ、舐めると余計くっさいですね、このちんぼ...」

まる「んちゅ...このまま尿道とカリ首を舐めて...焦らしてあげましゅ...れろお...」

まる「んちゅう...このマゾざーめんがたぶたぶ詰まったぁ...タマタマも...舐めてあげますねえ♡...ん...じゅばっ...くすっ、たま裏くっさぁ♡最悪の香りです♡...んちゅ...じゅるる...」

まる「キンタマきもひいいですかぁ？...じゅる...ちゅばあ...」
まる「んっ、ここにい...女の子を孕ませる特濃ザーメン...んっ...じゅる...溜まってるんですよねえ...♡」

まる「お兄さんの場合...んちゅ...じゅる...孕ませるのでなく...ちゅば、れろお...ただの情けない無駄うち
おしゃせー、ですけど♡...じゅるる...ちゅば...んっ...」

まる「そろそろ...マルの小さなお口でえ...んちゅう...ちんぽ全体を、包んであげましゅ...んちゅう...じゅる
...んっ、おつき♡...ほんと、凶悪なちんぽです♡」

まる「んっ...じゅる...じゅぽお...ぐっ...ほんほ...おっひい...んっ、んっ...ほら、乳首とちんぽの刺激...繋
いでくださあい♡んっんっ、一緒に、気持ちよくなってくださいあい♡」

まる「ん...ふはあ...くすっ、お兄さん、キンタマきゅ〜ってなって...そろそろマゾミルクびゅくびゅくしそう♡」
まる「ほら、見てください...マルのお口、ここにびゅるびゅるマーキング射精、したいですかぁ？」

まる「首を縦にフリフリしてえ」
まる「もう羞恥心もない、素直なマゾオスになっちゃいましたねえ♡...いいですよお」
まる「最高に恥ずかしくて無様な、乳首イキ射精...きめちゃってください♡」

まる「んっ...れろお...んじゅる...じゅぽ...じゅぽじゅぽ...んっ、んっ、どうれすかぁ...乳首カリカリされなが
らのお...んっ、んっ...じゅるる、じゅぽじゅぽフェラあ...♡」

まる「じゅっぽ、じゅるる...じゅる...あはっ、マゾちんぽびくって跳ねて...んっ、じゅるる...そんなにマルの
お口にだらしなくおしゃせーしたいですかぁ？...ん...じゅるる」

まる「汚いザーメンでえ...んっ...じゅるる...小さなマルのお口を気持ちよ〜く、じゅるる...びゅるびゅるっ
てえ...汚したいですかぁ...♡」

まる「んんっ、そろそろ限界、そうですねえ...じゅるる...じゅぽっんんっ、一気に吸い上げてあげましゅ...
じゅるる...じゅるるるるるるる...じゅっぽじゅっぽ♡」

まる「ほら、いいれすよ...いっぱいここに...んっ、吐き出して...ちゅば...イケイケ...イっちゃえこの変態♡」
まる「じゅるるるるるるっ...んっんんん〜〜〜！！」

まる「んんんっ、んおおっ...ふー、んむう...じゅるる...ふう...んおっ...♡」
まる「えげつない量...出てます...んむう...びゅるびゅるって...マルの口の中...んじゅる...ちゅば...」
まる「すー、すー、んむ...むわあって...ちゅる...口の中でザーメンの匂い広がって...ちゅぽっ、えっぐう♡」
まる「くっさあいオス臭が...んむっ、鼻まで...突き抜けます...ふう...ちゅるる...全部、出ましたかぁ？」
まる「最後まで...じゅば...吸い出し、ます...ちゅ、じゅるるる♡...ん、ふはあ♡」

まる「このお口の中のザーメン...見ます？...れろお...ほらあ、こんらに...でたんれすよ...♡」
まる「くすっ、見せつけられると、もっと興奮します？」

まる「ならあ...んじゅる...ちゅる...んっ、はあ...耳元でえ...♡」
まる「マルがこの...じゅる...濃厚こってりザーメン、ごっくんって飲み干すところ...」
まる「んちゅ...ちゅば...聞いてくださあい♡」

まる「じゅるる...ちゅる...んっ、絡みついて...どろどろで...」
まる「おまんこ濡れるくらい、エッチなお味い...♡」
まる「じゅるる...ちゅば...いき、ますよお？」
まる「...んっ...ふう...ごくんっ...んっんっ...はあ...ほら、飲みまひた...♡」

まる「喉奥まで絡みついて...エグい後味い♡...くすっ、ご馳走様です♡」
まる「こんなのマルに飲ませて...セックスしたくなったらどうするんですか♡」
まる「くすっ、想像してにやけちゃいましたか？ 可愛い♡」

まる「...さてと、スッキリしたことですし...」

まる「お兄さんは残りのパフェを食べちゃいましょう！」

まる「マルも一緒に食べますからあ...最後まで恋人みたいにいちゃいちゃしましょうよお♡」

まる「はい、もう一度...あ〜ん♡」

まる「あ、そだ...お兄さんこれ、伝票、ここに置いておきますね...？」

まる「あっ、食べ終わってから見た方が...ってぎゃー！」

まる「こっち向いて嘔き出さないでくださいよ！汚いですね！」

まる「マナーってものを知らないんですか！」

まる「まあ、お支払いいただけるならなんでもいいですけど」

まる「えへへ...今日もたくさんご注文、ありがとうございましたあ♡」